

教科名	国語	科目名	国語総合	学年	1学年
教材	教科書	新編 国語総合 改定版		単位数	2
	副教材	常用漢字の1・2トライ		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力、読む能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 毎時間小テストを実施します。				
	2 現代文(随想・小説・評論・詩歌)を読んで、それぞれの作品に対する理解を深めます。				
	3 古典(古文・漢文)を読んで独特のリズムを味わい、古人の考え方を学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○感動する心	・国語総合の学習について ・ワンダフル・プラネット	学習規律の徹底 ※単元ごとにワークをします。
	5	○日本語を見つめる ○古文に親しむ	・漢字の性格 ・古典の魅力	
	6	○随筆の楽しみ	・春はあけぼの	[中間考査]ノート提出
	7	○小説を楽しむ	・子供たちの晚餐	
	8	○社会に生きる ○漢文のとびら	・「何のために『働く』のか」 ・漢文のすすめ	
	9	○古文に親しむ	・ねずみの婿とり ・児のそら寝	[期末考査]ノート提出

前期目標	
------	--

後	10	○小説を味わう ○随筆の楽しみ	・羅生門 ・にくきもの ・公世の二位のせうとに	
	11	○漢文のとびら	・訓読のきまり ・訓読に親しむ	
	12	○いのちと平和 ○自然に目を向けて	・心が生まれた惑星 ・生きることと食べることの意味	[中間考査]ノート提出
	1	○故事と史話	・故事	
	2	○論理をはぐくむ	・水の東西	[学年末考査]ノート提出
	3	○詩歌との出会い	・「はる」「一つのメルヘン」 「あどけない話」「短歌」 「俳句」	

後期目標	
------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。 	
評価の観点	【関・意・態】	・国語や言語文化に対する関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか。
	【話・聞】	・自分の考えを深め、目的や場面に応じた話し方、聞き方が出来るか。
	【書】	・自分の考えを深め、相手や目的に応じた適切な文章を書けるか。
	【読】	・自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。
	【知・理】	・表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。

教科名	公民	科目名	現代社会	学年	1 学年
教材	教科書	高等学校 現代社会 新訂版 (清水書院)		単位数	2
	副教材	高等学校 現代社会 新訂版ワークノート (清水書院)		履修区分	共通
学習の目標	1 現代社会の基本的な問題について、主体的に考察し公正に判断する力を培います。				
	2 社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正に判断する力を養います。				
	3 広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めます。				
学習の進め方	1 教科書を中心に前期は青年期と政治分野、後期は経済分野と国際社会について学びます				
	2 アクティヴ・ラーニングに参加し、思考力・判断力・表現力を身につけます。				
	3 ワーク提出や小テスト・定期考査を通し、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○青年期と自己の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期と自己実現 ・よりよく生きることを求めて 	※考査毎にファイル・ワークを提出
	5	○現代の民主政治と政治参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権の保障 ・日本国憲法、国民主権、天皇制 	・小テスト
	6		<ul style="list-style-type: none"> ・平和主義 ・国会・内閣・裁判所 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間考査 ・ファイル提出
	7		<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治 	・課題レポートⅠ
	8	○個人の尊重と法	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙 ・個人の尊重と自由・責任 	
	9		<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた司法制度に向けて ・民主社会と倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 ・ファイル提出
前期目標				
後	10	○現代の経済社会と経済活動のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・経済主体と経済循環 ・景気変動と物価、経済規模と経済成長 ・戦後の日本経済 	
	11		<ul style="list-style-type: none"> ・企業の役割とはたらき ・租税のしくみと財政 (租税教室を含む) ・金融機関と金融政策 	・小テスト
	12		<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の役割と課題 ・労働問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間考査 ・ファイル提出 ・課題レポートⅡ
	1	○国際社会の動向と日本の果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際社会 ・冷戦のはじまりと世界の動き ・国際収支と為替相場 	
	2		<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化 ・国際経済の諸問題 ・冷戦後の世界と核軍縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査 ・ファイル提出
	3	○ともに生きる社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連合と国際平和 ・日本の安全保障と平和維持活動 ・課題を選択してのレポート 	・課題レポートⅢ
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テストの成績、ワーク・ファイル・レポートの提出状況、授業への関心・意欲・態度、アクティブラーニングへの取り組み等で評価します。 ・公民科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。
評価の観点	【関意態】 現代社会に対する関心の高さ、授業に取り組む姿勢(授業態度・提出物の状況)。
	【思判表】 社会の諸問題に対する多面的な視点を持っているか(レポート・AL)。
	【技能】 資料の選択・活用がなされているか(レポート・定期考査・AL)。
	【知理】 現代社会の基本的事項を身につけているか(定期考査・小テスト)。

教科名	数学		科目名	数学 I	学年	1 学年
教材	教科書	新編 数学 I (東京書籍)			単位数	2
	副教材	ニューアシスト 新編 数学 I+A (東京書籍)			履修区分	共通
学習の目標	1 数を実数まで拡張する意義や、集合と命題の基本的な概念を理解できるようにする。					
	2 式を多面的にみたり処理したりできるようにする。					
	3 1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。					
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、式の展開や因数分解, 実数と絶対値まで学ぶ。					
	2 後期は教科書の内容を中心に、根号, 1次不等式, 集合と論証, 2次関数の最初まで学ぶ。					
	3 週ごとに週末課題をワークから出して提出させ、学習習慣を確立しつつ理解を深める。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○中学までの復習 ○式の計算	・数学 I の学習について ・新入生課題の解説 ・整式	*年間を通して小テストを行っていく ・新入生課題のテスト
	5	○式の計算	・整式の加法、減法、指数法則 ・式の展開	
	6	○式の計算	・因数分解 (初歩的なものとたすきがけ)	・中間考査 ・ノート提出
	7	○式の計算	・因数分解 (工夫が求められるもの)	
	8	○実数	・有理数、実数、絶対値	
	9	○実数	・平方根、分母の有理化	・期末考査 ・ノート提出
前期目標				
後	10	○1次不等式	・不等式とその解 ・1次不等式の解法 ・1次不等式の応用	
	11	○1次不等式 ○集合	・連立1次不等式の解法 ・集合、部分集合、共通部分と和集合、空集合、補集合	・中間考査 ・ノート提出
	12	○命題と条件	・命題と条件、必要条件、十分条件	
	1	○命題と条件	・条件の否定とド=モルガンの法則	
	2	○命題と条件	・命題の逆、裏、対偶 ・対偶を利用する証明法 ・背理法	・学年末考査 ・ノート提出
	3	○2次関数とそのグラフ	・関数 ・関数の定義域、値域 ・2乗に比例するグラフ	
後期目標				

評価方法	・定期考査、小テストの成績、週末課題やノートの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価する。 ・数学科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。	
評価の観点	【関・意・態】	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしているか。
	【数学的見方】	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を多面的・発展的に考えているか。
	【数学的技能】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。
	【知・理】	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけているか。

教科名	理科	科目名	化学基礎	学年	1
教材	教科書	新編 化学基礎		単位数	2
	副教材	改訂版 リードlight ノート 化学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 化学が人間生活に果たしている役割を理解する。				
	2 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。				
	3 化学の基本的な概念や法則を理解する。				
	4 探究活動や実験を通して、化学的に探究する能力を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、原子の構造や化学の基本概念や法則を習得します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	第1編 物質の構成と化学結合 ○物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> 混合物と純物質 物質とその成分 	
	5	○物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 物質の三態と熱運動 原子とその構造 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト
	6	○粒子の結合	<ul style="list-style-type: none"> 原子とその構造イオン 周期表 イオン結合 	<ul style="list-style-type: none"> 中間考査 ノートファイル提出
	7		<ul style="list-style-type: none"> 分子の共有結合と極性 	
	8	第2編 物質の変化 ○物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> 共有結合の物質 金属結合と金属 	
	9		<ul style="list-style-type: none"> 原子量、分子量、式量 物質質量 	<ul style="list-style-type: none"> 期末考査 ノートファイル提出
前期目標				
後	10		<ul style="list-style-type: none"> 溶液の濃度 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト
	11		<ul style="list-style-type: none"> 化学反応式と物質質量 	
	12	○酸と塩基の反応	<ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基 水の電離と水溶液のpH 	<ul style="list-style-type: none"> 中間考査 ノートファイル提出
	1	○酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 中和反応 塩 酸化と還元 	
	2		<ul style="list-style-type: none"> 酸化剤と還元剤 	<ul style="list-style-type: none"> 学年末考査 ノートファイル提出
	3		<ul style="list-style-type: none"> 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用 	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。 				
評価の観点	【関・意・態】	宿題、提出物、レポートの提出状況。ノートファイルの整理。			
	【思・判・表】	ビデオレポートや実験レポート、プレゼンテーションの内容。			
	【技能】	実験・観察レポート。			
	【知・理】	定期考査・小テスト。			

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	2
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 1年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○体力テスト ○体づくり運動	・シャトルランによる体力診断 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・班づくりと準備体操づくり
	5	○器械運動	・マット運動の基本技能 (個々の能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる。)	・発表会の実施
	6	○体育理論	・運動・スポーツの文化的特徴	・前期中間考査
	7	○陸上競技	・短距離走 (50m、100m)	・記録会の実施
	8	○水泳	・クロールの習得 (ゆっくり長く泳ぐ)	・記録会の実施
	9	○陸上競技	・長距離走 (トレッキング、ウォーキング ジョギング)	・強歩記録会の実施 ・前期末考査
前期目標				
後	10	○球技 ○体育理論	・バレーボール (個人技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開します。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
	11			・後期中間考査
	12	○スキー	・クロスカントリースキーの見学体験(多様なスキー文化を知る。)	・クロスカントリーコースでの見学と取材活動
	1		・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。	・技能テストの実施
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	・実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。				
評価の観点	【関意態】	・運動やスポーツに、積極的に取り組んでいるか。			
	【思判】	・安全の確保に努め、仲間と協力して運動に取り組んでいるか。			
	【知理】	・ルールや審判法について理解しているか。			
	【技能】	・個々の基礎体力や各種運動技能が向上しているか。			

教科名	保健体育	科目名	保健	学年	1 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 日常生活と健康の関わりについて理解を深めます。				
	2 心の健康について理解を深めます。				
	3 日常生活における事故防止や安全の確保について理解を深めます。				
学習の進め方	1 自らの心身の健康について考えます。				
	2 現代社会が健康に及ぼす影響等について考えていきます。				
	3 日常的な応急手当や心肺蘇生について学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○オリエンテーション ○私たちの健康のすがた	・保健の学習について ・わが国の健康水準 ・わが国の健康問題	・授業規律についての確認	
	5	○健康のとらえ方 ○健康と意志決定 行動選択	・健康とその成り立ち ・健康と意志決定、行動選択の関わり		
	6	○健康に関する環境づくり ○生活習慣病とその予防 ○食事と健康	・健康と環境・ヘルス ^o プロモーション ・生活習慣病とその予防 ・健康的な食生活	・前期中間考査	
	7	○運動と健康 ○休養・睡眠と健康 ○喫煙と健康	・運動の意義、運動習慣の形成 ・よりよい休養と睡眠 ・喫煙の健康被害と対策		
	8	○飲酒と健康 ○薬物乱用と健康	・飲酒の健康問題と対策 ・薬物乱用と健康との関わりと問題、防止と対策		
	9	○現代の感染症 ○感染症の予防 ○欲求と適応機制	・さまざまな感染症とその問題 ・感染症の予防と対策 ・欲求、欲求不満と適応機制	・前期期末考査	
	前期目標				
	後	10	○心身の相関とストレス ○ストレスへの対処 ○心の健康と自己実現	・心身相関のしくみとストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現の関わり	・後期中間考査
		11	○交通事故の現状と要因 ○交通社会における 運転者の資質と責任	・交通事故の現状と要因 ・運転者の資質 ・運転者の責任と補償	
12		○安全な交通社会づくり	・法的整備、施設・設備 ・車の安全性向上		
1		○応急手当の意義と その基本	・応急手当の意義と手順		
2		○心肺蘇生法	・心肺蘇生の意義と手順		
3		○日常的な応急手当	・けがや熱中症の応急手当		
後期目標					

評価方法	・定期考査や日常の授業における参加意欲や学習態度を中心に評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	・健康や安全について興味関心をもち、意欲的に授業に参加しているか。
	【思・判】	・自らの健康安全について考え、改善しようとしているか。
	【知・理】	・健康の保持増進や安全の確保について、理解できているか。

教科名	美術	科目名	美術 I	学年	1
教材	教科書	高校生の美術 1 [日本文教出版]		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 造形表現の基礎を身につけ、表現活動を実社会に役立てる態度を高める。				
	2 様々な視点から作品を鑑賞し、自らの制作に生かす能力を高める。				
学習の進め方	1 作品制作を重ね、造形表現の基礎を身につけていきます。				
	2 教科書、配付資料、作品鑑賞を参考にしながら、表現方法の幅を広げていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション p 2～3、p 66～68	3年間の美術や工芸の授業を通して身につける力と、そのためにやることを確認します。	道具の管理方法や授業への臨み方を、早く身につけるようにしましょう。
	5	○アクリルパレットの扱い方 p 132～139 p 146～150	準備から作業、片付けまでの手順と表現方法の基本（混色）を、実習形式で学びます。	
	6	○基礎構成 (A表現デ) p 70～75	構成の基礎学習を通して、テーマの考え方、制作のプロセスを学びます。	
	7	○社会と美術 (A表現デ) (B鑑)	「地域」をテーマに、問題解決のためのデザインを行います。授業はリサーチ、グループ作業、プレゼンテーションの手順を踏んで進めます。	作品完成後にプレゼンテーションを行い、相互交流（鑑賞）を行います。
	8		完成作品は、一定期間村内に掲示されます。	
9				

前期目標	表現（デザイン）の基礎的技術を身につけよう。			
------	------------------------	--	--	--

後	10	○観ること、描くこと (クロッキー、スケッチ) p 128～131 p 6～25	観察を通して、対象のとらえ方を学びます。思い込みを排し、客観的な対象の捉え方を身につけます。技術が的確に向上するように、ワークシートを活用します。	独自の見方に陥らぬよう、客観的な観察の視点を、制作・鑑賞を通して総合的に身につけるように心がけよう。
	11			
	12	○テーマを元に描く (A表現絵) (B鑑) p 8～15 p 70～71	表現のテーマを自分で設定するところから始めます。制作の時間は限られていますので、今まで学んできた表現方法を活用していきます。配色や構図・構成を意図して表現できるように、たくさんのエスキースを描きます。また、クロッキーやスケッチを通して身につけた観察・表現の技術を活用するようにします。また、作品の相互鑑賞も行	何のための表現かを見失わぬよう、表現主題、表現意図を大切にしましょう。作品鑑賞を通して、主題と表現方法の関係を理解するようにしましょう。テーマ（表したいこと）にふさわしい表現方法（表し方）を選択できるよう、エスキースをたくさん描き、また他者意見に耳を傾けよう。
	1			
	2			
	3			

後期目標	テーマの設定や表現の工夫の仕方について、制作や鑑賞を通して学ぼう。			
------	-----------------------------------	--	--	--

評価方法	授業中の様子や課題の提出状況等により、主体的に取り組んでいるかを見取る ワークシートやエスキース、交流発表等より発想・構想、鑑賞の能力について見取る 制作過程や提出作品より、創造的な技能を評価する			
評価の観点	【関・意・態】	主体的に美術に関わろうとし、表現することの喜びを享受しようとしたか。		
	【発想・構想】	様々な視点から豊かに発想し、表現意図に応じた方法を選択することができたか。		
	【技能】	造形表現の基礎的技術を身につけ、効果的に表すことができたか。		
	【鑑賞】	自分なりの見方を持つとともに、他者視点からあるいは客観的にとらえることができたか。		

教科名	工芸		科目名	工芸 I	学年	1
教材	教科書	工芸 I			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1 用途や機能、美的要素を兼ね備えた個性豊かな作品の制作を通し金属工芸・漆芸・陶芸の基礎を学ぶ。					
	2 創作活動や鑑賞を通して感性を高めるとともに、日本の工芸文化についての理解を深め豊かな表現力を身に付ける。					
学習の進め方	1 さまざまな素材の工芸制作を体験し、素材の美しさを活かす作品作りを学ぶ。					
	2 機能と美しさを考え、真鍮削り出しにて作品を制作する。					
	3 カシュー塗りによる作品を制作し素材と表現の工夫や日本の工芸文化を考える。					
	4 粘土をつかった小作品の制作をとおし、陶芸の制作の過程と表現の方法を考える。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	金属工芸 (真鍮削り出しによる ペーパーナイフ)	・クロッキーを基にした線のまとめ、誇張、簡略。 ・モデルづくり、デザインの検討	加工法（金工鋸、糸のご盤、ボール盤）と作業量も考慮し、デザインを検討する。
	5		・用途や機能を理解し意匠を考え構想を深める。	機械での加工時は周囲の安全を確認し正しく使用すること。
	6		真鍮のペーパーナイフをつくる。	道具は目的に応じて正しく使用すること。
	7		・金属の特徴、加工法、道具、作業順、注意点を学ぶ。	作品制作は計画的に進め、丁寧に仕上げること。
	8		真鍮の切削 削り出し、研磨 仕上げ 鑑賞	
	9	漆芸 (カシュー塗りによるマイ箸の制作)	アイディアスケッチ ・身近な生活と工芸との関わりについて考える。	
前期目標	アイデアを練り形にする体験を通し作品制作に対する見通しを持つ。 用途や機能、美的要素を兼ね備えたものづくりを考えることで工芸に対する意識を高める。			
後	10	漆芸 (カシュー塗りによるマイ箸の制作)	・漆芸の特色を生かした意匠を考える。 木材の加工	作品制作は計画的に進め、丁寧に仕上げること。
	11		素地調整 塗り 研ぎ出し 鑑賞	塗りの作業はカシュー用シンナーを使用する。必要以上に容器から出さず、喚起を充分に行う。
	12			
	1	陶芸 (箸置き制作)	・社会とつながる工芸について考える。	
	2		形や釉薬を工夫して制作する。 ・他者視点から観たものづくりを考える。	
	3			
後期目標	素材に応じて表現を工夫し最後まで丁寧に作業をする。 日本の伝統工芸に対する理解を深める。			

評価方法	提出された作品の状況、課題に対する技術力、デザイン力、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。		
評価の観点	【関・意・態】	積極的かつ丁寧に取り組み、工芸への関心を高められるか。	
	【発想・構想】	課題に応じて自己のアイデアやイメージを考え表現できるか。	
	【技能】	作業工程に応じ道具を正しく使い適切かつ安全に作業ができるか。	
	【鑑賞】	自分の作品、他人の作品の良さを客観的に捉えることができるか。	

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語 I	学年	1 学年
教材	教科書	New ONE WORLD Communication I Revised Edition (教育出版)		単位数	2
	副教材	New ONE WORLD Communication I Revised Edition Workbook (教育出版)		履修区分	共通
学習の目標	1	英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。			
	2	学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。			
	3	身近な出来事や自分について、やさしい英語で読み手に伝わるように書くことができる。			
学習の進め方	1	教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。			
	2	ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。			
	3	ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。			

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方、学習の方法について 入学前課題の解答と復習 既習事項の確認 	※各Lessonのパート毎にワークを確認します。
	5	L1 Let's See the World	<ul style="list-style-type: none"> 英語の有用性に触れ、英語学習の意欲を高める 文構造 (SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC) to不定詞 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト プリント
	6			<ul style="list-style-type: none"> 中間考査 ファイル提出
	7	L2 Bread Culture in Japan	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本のパンの歴史について 比較表現 (比較級, 原級比較) 受動態 進行形 興味や関心のある事柄について話す 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト プリント
	8			<ul style="list-style-type: none"> 小テスト プリント
	9	L3 Why Do Cats Purr?	<ul style="list-style-type: none"> ネコの生態やさまざまな特徴について 動名詞 SVO (=that節) 	<ul style="list-style-type: none"> 期末考査 ファイル提出
前期目標				
後	10	L3 Why Do Cats Purr?	<ul style="list-style-type: none"> 分詞の形容詞的用法 読んだり調べたりした情報や考えを伝える。 	
	11	L4 The Power of Anime	<ul style="list-style-type: none"> 日本のアニメの歴史や影響力について 現在完了形, 過去完了形 比較表現 (最上級) 与えられたテーマについて話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト プリント
	12			<ul style="list-style-type: none"> 中間考査 ファイル提出
	1	L5 Projects with a Difference	<ul style="list-style-type: none"> 様々なイベントの成り立ちや考え方を知る。 関係代名詞who, which, that (主格) 関係代名詞whom, which, that (目的格) 英語で紹介文を書いたり、発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト プリント
	2			<ul style="list-style-type: none"> 学年末考査 ファイル提出
	3	一年のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返り、次年度に向けて 	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への積極的参加や態度、定期考査・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。 	
評価の観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。
	【表現】	英語で話し合い・意見の交換ができる、情報や考え等を簡潔に書くことができる。
	【理解】	英語を聞いたり読んだりして理解し、概要や要点をとらえたりすることができる。
	【知識】	言語やその運用・文化背景についての知識を理解し、身に付いている。

教科名	情報	科目名	社会と情報	学年	1
教材	教科書	見てわかる 社会と情報 (日本文教出版)		単位数	2
	副教材	・情報のノート 見てわかる社会と情報 (日本文教出版) ・コンピュータ入力問題集 (日本文教出版)		履修区分	共通
学習の目標	1 情報に関する科学的な見方や考え方を生かし、情報モラルを踏まえて思考を深め、適切に判断し、表現する。				
	2 情報の基礎的・基本的技能、知識を身につけ、それらの意義や役割を理解する。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容をもとに、実習を通してワードやパワーポイントの技能を身につける。				
	2 後期は教科書の内容をもとに、実習を通してエクセルの技能を身につける。				
	3 定期考査前には教科書を中心に、情報化が社会に及ぼす影響等について学ぶ。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○情報機器の基本的な使い方	・ワードを用いた文書処理等	(年間を通してコンピュータソフトの技能小テストを行う)
	5	○情報機器の基本的な使い方	・ワードを用いた文書処理等	
	6	○情報を整理して伝える	・パワーポイントを用いたプレゼンテーション	
	7	○情報機器の利用するときの注意点	・インターネットを利用する上での注意点	
		○情報社会の課題について	・サイバー犯罪、法と個人の責任	
	8	○情報機器の利用するときの注意点	・インターネットを利用する上での注意点	
9	○表計算ソフトの使い方	・エクセル実習	・前期期末考査 ・ファイル提出	
前期目標				
後	10	○表計算ソフトの使い方	・エクセル実習	
	11	○表計算ソフトの使い方	・エクセル実習	
	12	○情報セキュリティの確保	・個人認証とアクセス制御 ・情報セキュリティを高める	
		1	○情報セキュリティの確保	・知的財産権 ・個人情報の保護
	2	○情報通信ネットワークとコミュニケーション ○デジタルデータの特徴	・コミュニケーションの手段、ネットワークの活用 ・2進法等、2進法による表現	・学年末考査 ・ファイル提出
	3	○表計算ソフトの使い方	・エクセル実習	
後期目標				

評価方法	・定期考査, 小テストの成績, ノートの提出状況, 日常の授業への参加態度等で評価する。 ・情報科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。				
評価の観点	【関・意・態】	授業に対し積極的に臨んでいるか。自ら情報及び情報技術を活用し問題解決を図っているか。			
	【思・判・表】	情報モラルを踏まえ、思考を深め、適切に判断し表現しているか。			
	【技能】	目的に応じて情報機器の基礎的・基本的技能を身につけているか。			
	【知・理】	社会における情報及び情報技術の意義や役割における知識を身につけ、それを理解しているか。			

教科名	工業	科目名	工業技術基礎	学年	1 学年
教材	教科書	工業技術基礎 (実教出版)		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 制作に関する基礎的技術を実習によって体験し、木工への興味・関心を高める。				
	2 制作活動を通して工具の使用法を理解し、木工の意義や役割を理解する。				
	3 制作に関する広い視野と倫理観を持って木工の発展を図る意欲的な態度を育てる。				
学習の進め方	1 プリントを中心に木工具の成り立ちや使用法について学びます。				
	2 実習をとおして木工具の使用法を習得し、制作の基礎を理解します。				
	3 蛇腹・松材の薄削り・鍋敷き・鑿箱・彫刻刀箱を制作し、技術を習得します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	○オリエンテーション ○スコヤ・差し金・罫引き 鋸の使用法 ○墨付け、墨回しについて	・本校で使用する工具について		
	5		・棧積み		
	6		・スコヤ・差し金・罫引き・鋸の使用法		
	7	○研ぎについて ○鉋の仕立て	・鉋について ・鉋台の調整方法 ・鉋身・裏金の研ぎ方の習得 ・鉋の使用法について		
	8	○鑿の仕立て	・鑿について ・鑿の仕立て ・鑿の研ぎ	・ワークシート	
	9	○組み手の制作	・各種ほぞ組みについて	・ペーパーテスト	
	前期目標				

後	10	○組み手の制作	・表面を鉋で仕上げる	
	11			・課題提出
	12	○箱の制作	・組み手を用いた箱の加工 ・板接ぎの方法	・箱の提出
	1	○小物入れの制作	・今までの基礎・基本を振り返りながら制作する	
	2			
	3			・小物入れの提出
後期目標				

評価方法	・課題提出状況、課題に対する技術力、ペーパーテスト、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	工具の使用法に意欲を持って積極的な取り組みができているか。
	【思・判・表】	工具について理解し、状況に応じて正しく安全に使用することができたか。
	【技能】	正しい工具の使用法が習得できたか。
	【知・理】	工具の成り立ちや使用法を正しく理解できたか。

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	1 学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1製図の基礎となる平面図法、立体図法作図の基本を身につけます。				
	2形態と図面との関係を正確に理解し、図面を読図する能力を育てます。				
	3構想と表示の能力を養います。				
学習の進め方	1製図に用いる基本的な道具の使用法を学びます。				
	2製図の基礎となる平面図法、立体図法について学び作図をします。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション	・年間指導計画、学習の心構え、評価方法について	
	5	○製図について ○平面図法	・製図の目的や道具の名前、使用方法について ・平面図法を作図します。 ・直線に関する図法	ファイル提出
	6		・円に関する図法	ファイル提出
	7		・接触角に関する図法	ファイル提出
	8		・曲線に関する図法	ファイル提出
	9		・前期まとめ	前期末考査
前期目標				
後	10	○立体図法	・投影図の種類 ・ドラフターの使い方	ファイル提出
	11		・投影図の種類	ファイル提出
	12		・第三角法と等角投影法	ファイル提出
	1		・第三角法と等角投影法	ファイル提出
	2		・後期まとめ	ファイル提出
	3			学年末考査
後期目標				

評価方法	・理解度テストの成績、ワークシートの提出状況、ワークシートの内容、日常の授業への参加態度、技能等で評価します。			
評価の観点	【関・意・態】	・製図道具管理や図法の基礎・基本の習得に意欲的に取り組んでいるか。		
	【思・判・表】	・作図方法、立体や平面の把握、設計の意図を正確に表すことができるか。		
	【技能】	・製図用具を正しく使用し、丁寧な作図ができるか。		
	【知・理】	・作図の当分や比率の把握、平面図法・立体図法の概念を理解しているか。		

教科名	工芸	科目名	木材理論	学年	1学年
教材	教科書	なし		単位数	1
	副教材	木材の性質と加工（開隆堂）		履修区分	共通
学習の目標	1 生活における工芸の意義を理解する。				
	2 素材や加工法についての基礎的、基本的な内容を理解する。				
学習の進め方	1 副教材や配布プリント、板書やビデオ教材を通して知識を身に付けます。				
	2 森林探訪を通して、樹木の生物的な性質と素材としての性質について理解します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	リエンテーション 木材資源と人間	木材の分類と種類 木材の肉眼的構造	授業で配布する資料は、忘れず ファイリングしてください。 板書をまとめ、理解しやすく 記録を取ってください。	
	5	異常組織と傷害組織 森林探訪	木材の種類と性質について事前に 学習します。	森林探訪に参加し、音威子府村内 でフィールドワークします。	
	6	木材の構造 栈積み実習	材料庫整理と栈積み体験	体験的学習は、特に主体的に取り 組むようにしましょう。 前期中間考査	
	7	木材の物理的性質			
	8	木材の物理的性質			
	9	木材の機械的性質	ビデオ教材の鑑賞①	前期末考査（評価が出ます。）	
	前期目標				
	後	10	木材の機械的性質		
		11	木質材料		後期中間考査
12		接着剤・緊結材			
1		木材の種類と性質			
2		塗装		学年末考査（評価が出ます。） 今後の制作で必要な知識を しっかりとつけておきましょう。	
3		学習の復習・まとめ	ビデオ教材の鑑賞②	木工芸以外についても知りながら 木のよさを考えましょう。	
後期目標					

評価方法	定期考査や授業ファイルの提出状況、日常の授業への参加の態度（意欲的に・主体的に学習や鑑賞に取り組んでいるか。感性をはたらかせて工芸のよさや美しさを感じることができるか）で、総合的に判断し評価します。			
評価の観点	【関・意・態】	学習の内容について理解しようとする積極的に取り組むことができるか。		
	【思・判・表】	木工芸に関する基礎的な知識を、実際の制作と結び付けて考えることができるか。		
	【技能】	本校で使用する木材の種類を見分けることができるか。		
	【知・理】	工芸の意義や木材の性質、道具や構造について理解することができるか。		

教科名	工芸	科目名	木工制作 I	学年	1 学年
教材	教科書	なし		単位数	3
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 木工芸作品の制作を通して、木工芸への関心を高め、ものづくりの考え方を学びます。				
	2 基本的な工具の使用法と木工芸における基礎的な技術を身に付けます。				
	3 加工手順や安全・強度を考慮する力、イメージを単純化する力を身に付けます。				
学習の進め方	1 糸鋸盤やボール盤を使用する教材を通して技術を習得します。				
	2 小作品の制作を通して、手工具の基本的な使用法、素地調整、接ぎ、塗装を学びます。				
	3 高大連携授業等による課題を通して、ものづくりの考え方をまとめていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○動物ぐるま	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容・設備の把握 ・墨付、糸のこ盤、ボール盤の操作 ・素地調整、オイルフィニッシュ ・木材の種類、繊維方向とその作品の仕上がりとの関係性についての学習 ・服装、安全保持、清掃方法の学習 	簡単な木工作品を通して、墨付けから完成までの工程及び基礎的な工具の扱い方を学びます。カツラを使用します。
	5			
	6	○おもちゃづくりの考え方 ○動物パズル制作	※高大連携による講義 <ul style="list-style-type: none"> ・糸のこ盤による切り出しの習熟 ・モチーフの単純化、省略化 ・小刀、彫刻刀の扱いの学習 ・透かし彫り、葉研彫りの学習 ・芋接の行い方、クランプ、小刀、鑿、鉋等の扱い方の学習 ・組立手順、加工と基準面の関係 	加工と強度の関係について制作を通して学習します。彫りの練習を兼ねたパズル作りであることを理解して下さい。素地調整に頼らず切断する技術をつけるよう、意識していきましょう。構想から完成までの作品制作の順に必要な思考力を養う、制作する上で必要な思考力を高めましょう。カツラを使用します。
	7			
	8			
	9	構想 (エスキース) ↓		
前期	目標			
後	10	○カトラリー制作 スプーン制作 エスキース	<ul style="list-style-type: none"> ・機能と形の関係の学習 ・安全性に配慮したデザイン決定 ・大型機械による製材の基礎、材料選択、加工方法についての作業に応じた工具や加工方法を適切に選択する学習 	各自に必要な材料を選択します。無駄なく強度・加工工程を考慮して木取りして下さい。作業内容に応じて鋸、糸鋸、鑿、小刀、彫刻刀の使い分けする力を身につけて下さい。素地の状況を判断し、適切な番数を選択して素地調整できるようになって下さい。
	11	製材 加工		
	12	素地調整 塗装		
	1	○音のなる工芸品の制作 ラトル ホイッスル のどちらかを選択	<ul style="list-style-type: none"> ・集成加工、組立手順について学びます。 ・工程を考えて機能性を満たす作品づくりをします。 	接着、組立、塗装の順番を考えて作業するようにしましょう。締切を意識し、逆算して作業をするようにしましょう。
	2			
	3			
後期	目標			

評価方法	提出された作品の状況、課題に対する技術力、デザイン力、授業への意欲・態度等により総合的に評価します。	
評価の観点	【工芸への関心・意欲・態度】	学習課題を理解し、積極的かつ丁寧に取り組み、工芸への関心を高められるか。
	【発想・構想の能力】	課題に応じて美しい形を作り出し、構造や加工法、道具、材料の適切な選択ができるか。
	【創造的な技能】	作業工程に応じた適切な作業技術、安全確認を含め道具の適切な使用ができるか。
	【鑑賞の能力】	作品のよさや美しさ、加工法について考えを深め、制作に生かす事ができるか。